



橋北中学校だより

令和8年6月1日(月)

第2号 文責:奥田

津市立橋北中学校

「する」「みる」「支える」「知る」本気の4項目

5月27日(水)、令和8年度体育祭を開催しました。当日は午後から雨の予報があったため、午前中にすべてのプログラムを実施する形に変更しましたが、準備や進行にあたった生徒たちがてきぱきと動き、全体を滞りなく終えることができました。また、200名を超える保護者の皆様にご来校いただき、温かい声援に包まれた、活気あふれる体育祭となりました。

私が本校に赴任した3年前は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したばかりで、ようやく従来の学校行事を再開できるようになった時期でした。それまで3年間、全校での体育祭が実施できず、生徒も教職員も「どのように創り上げていけばよいのか」を模索しながらの再出発でした。

しかし、今年で4回目の体育祭を迎えた今、生徒たちは自ら考え、主体的に運営を進める姿を見せてくれました。急な予定変更にも落ち着いて対応し、互いに声を掛け合いながらスムーズに進行していく様子は、まさに本校の成長と積み重ねの成果そのものでした。上級生が培ってきた経験を自然と下級生が受け継ぎ、それをまた次の学年へとつないでいく。その連続が、橋北中の確かな力になっていることを強く感じました。

今年の体育祭のテーマは「全員主役 ～『する』『みる』『支える』『知る』本気の4項目～」でした。自分の競技に全力で取り組むことはもちろん、運営面で大会を支えたり、学級や学年を越えて応援し合ったりと、それぞれの立場で“主役”として参加しようという思いが込められています。その言葉のとおり、競技中の声援は学年の垣根を越えて響き、準備・運営・片付けの場面では上級生が率先して動き、その姿を見た下級生が自然と手伝う姿が随所に見られました。

また、学級のつながりや結びつきの強さも随所に見られました。競技前に円陣を組んで気持ちをひとつにする姿、仲間の失敗を責めるのではなく励まし合う声、競技が終わった後に自然と肩をたたき合う光景など、どの学級も「自分たちの力でやり切ろう」という思いがあふれていました。学級の団結が競技の力だけでなく、運営や応援の場面にも表れ、学級同士が互いに認め合いながら大会全体を盛り上げていたことが印象的でした。

こうした生徒たちの姿は、私が着任して以来、毎年変わらず見られるものです。学級の結びつきと、学年を越えた支え合いの文化が橋北中に根づいていることを、あらためて実感する体育祭となりました。



1年生避難訓練&MieMu 見学

5月19日(火)、1年生が避難訓練と探究学習を兼ねて、県立博物館 MieMu の見学を行いました。

本校では、南海トラフ地震が発生した際、1次避難所として津駅西口の偕楽公園へ避難し、その後、県総合文化センターへ2次避難を行う計画となっています。毎年この時期に、1年生は実際に避難経路を歩いて確認する訓練を行っており、今年も全員で偕楽公園、総合文化センターまでの移動を体験しました。初めての長い移動でしたが、列を乱さず落ち着いて行動する姿が見られ、1年生としての自覚が育ち始めていると感じました。

避難訓練の後には、県立博物館 MieMu にて見学学習を行いました。館内では、グループごとに設定したテーマに沿って展示を見学し、調べ学習を進めました。自分たちで問いを立て、資料を読み取り、まとめていく活動は、これから始まる探究的な学習の良いスタートとなりました。

この日は5月とは思えないほど気温が高く、体調不良が出ないか心配しましたが、どの生徒も最後まで元気に学校へ戻ってくることができました。暑さの中でも友だち同士で声を掛け合い、励まし合いながら歩く姿に、学級のまとまりや仲間意識の芽生えも感じられました。



上ノ村プロジェクト始動

今年も白山町上ノ村での稲作プロジェクトがスタートしました。過疎化が進む上ノ村を



「より良く、持続可能な地域にしたい」と願い、行動し続けている地域の方々の生き方に触れることは、生徒たちにとって大きな学びになっています。稲作という体験を通して、「自分の町や社会をより良くするにはどうすればよいのか」「社会に影響を与えられる人とはどんな存在なのか」を考える探究学習として取り組みを進めています。

3年目の探究は“提案”へ

3年目となる今年は、さらに一歩踏み込み、「上ノ村のために自分たちができることは何か」「地域に提案できる取り組みはないか」を考える段階へと進みます。単なる体験で終わらせず、地域とともに未来をつくる視点を育てることがねらいです。

田植えと地域散策で“問い”を探す

この日は午前中に田植えを行い、午後からは上ノ村の散策へ。実際に村を歩き、地域の方々からお話を伺うことで、探究の出発点となる“問い”のヒントを探しました。風景、暮らし、課題、魅力、五感で地域を感じながら、自分たちの探究テーマにつながる気づきを得ようとする姿が見られました。



3年生の女子生徒4人が、美術館付近の歩道で自転車で転倒した高齢の方を介抱していたという連絡を、地域の方から学校へいただきました。生徒たちは声を掛け、起き上がるまで寄り添い、安全を確認してその場を離れたとのことでした。

また同じ日に、島崎町の歩道で自転車で転倒し、起き上がれずに困っていた方から、「2年生の女子生徒2人に助けてもらい、本当に感謝している」とのお電話もいただきました。生徒たちは状況を見てすぐに駆け寄り、落ち着いて対応してくれたそうです。

こうした思いやりのある行動は、日頃から大切にしている「気づき・考え・行動する」姿勢が、生徒たちの中に確かに根づいている証だと感じました。地域の方々から寄せられた温かい言葉に、私たち教職員も大変嬉しく思っています。